

平成30年度 音声教材普及推進会議

音声付教科書を使用した読み支援

奈良県香芝市立下田小学校
通級指導教室「ことばの教室」

森 慶子

奈良県香芝市立下田小学校

- ・児童数 764名
- ・通常学級 24学級（各学年4クラス）
- ・特別支援学級 9学級（43名）
- ・通級指導教室

ことばの教室（言語障害通級指導教室）

ステップ教室（LD等通級指導教室）



香芝市

「ことばの教室」「ステップ教室」「通級指導教室」

・香芝市内 小学校1校、中学校1校に設置

下田小学校 「ことばの教室」「ステップ教室」

香芝中学校 「通級指導教室」

・下田小学校 通級児童数

ことばの教室 24名（自校通級13名・他校通級11名）

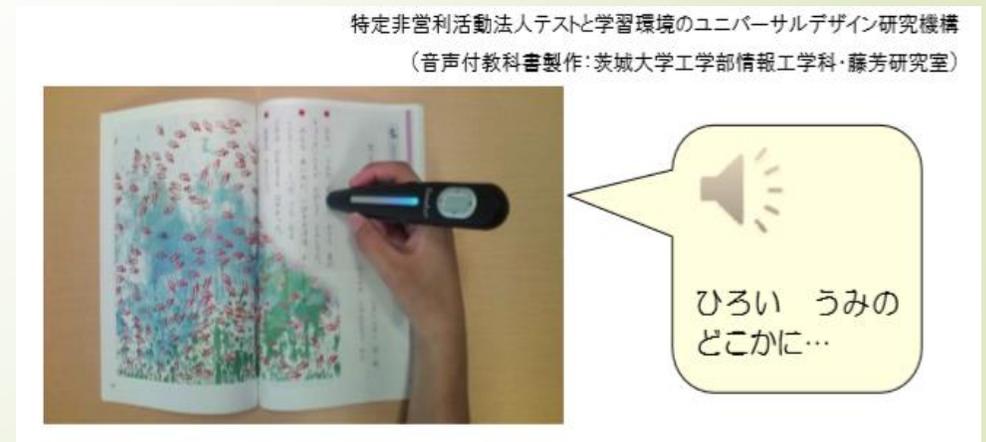
ステップ教室 26名（自校通級13名・他校通級13名）

音声付教科書 使用の経緯

- ・奈良県内の通級指導教室連絡会で、音声付教科書が紹介されたことをきっかけに、前任のことばの教室担当が茨城大学の藤芳先生へ連絡して、使い始めた。
- ・各学年 必要な数（音声付教科書+音声ペン）の貸し出し

※2018年度からは、送料のみでの無料提供も開始

→個人の物として、
所有しやすくなった。



《音声付教科書+音声ペン》

音声付教科書 使用の児童について①

現在の使用人数 9名

「ことばの教室」と「家庭」で使用 4名

「ことばの教室」だけで使用 3名

「家庭」だけで使用 2名

音声付教科書 使用の児童について②

使用児童の読みの困難さの様子

- ・逐次読みになってしまう。
- ・単語や文節の切れ目がわからない、わかりにくい。
- ・勝手読みをしてしまう。
- ・ひらがなが読めない。 ・特殊音節が読めない。 ・漢字が読めない。
- ・文字を長時間集中して読めない。
- ・読んでも内容がわからない、記憶できない。
- ・文章を読むことに時間がかかる。

音声付教科書 使用の児童について③

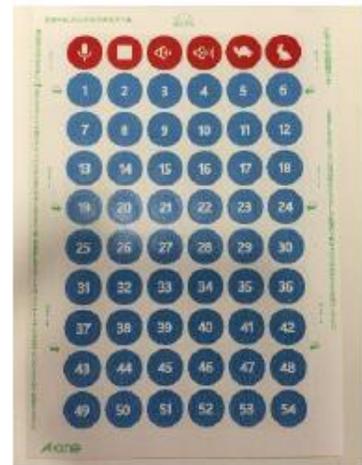
使用児童の読みの困難さに関する支援内容

- ・漢字にルビを振る。(教科書、テスト、プリント等)
- ・文節ごとにスラッシュを入れる。
- ・音読の時、視線移動ガイドとして「ものさし」等を使用する。
- ・音声付教科書で内容理解・音読練習を行う。
- ・テスト時には**音声ペン**で問題文を読み上げながら、実施する。

音声ペンについて

音声ペンの主な特徴

- ・専用のペンとシールを使用して、自分の声を簡単に録音することができる。
- ・専用のペンで、読みたい箇所をタッチするだけで、音声再生される。
- ・指導者も、児童がどこを読んでいるのか容易に把握できる。
- ・録音の操作やペンの扱いが簡単。
- ・持ち運びが便利。



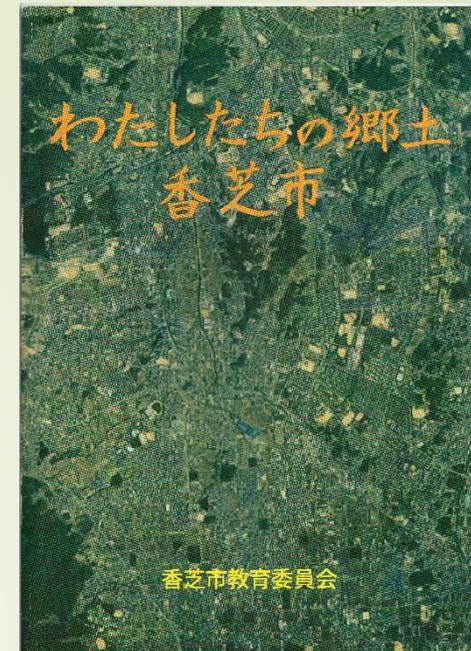
音声付教科書を知ってもらうために…

- ・社会科副読本「わたしたちの郷土 香芝市」の音声付教科書を作成

→ 香芝市内小学校に配布

(2016年度・2017年度に使用)

- ・下田小学校「子ども祭り」の絵本の広場にて、音声付教科書を展示



《事例》

読み書きに困難さがある5年児童A

～自分にあった学び方を求めて～

(1) 児童の実態

(2) アセスメント

(3) 音声付教科書（音声ペン）を使用した支援

①音読

②音声ペンを使用したテストの導入において ※ことばの教室にて実施

③音声ペンを使用したテストの導入において ※児童の教室にて実施

④音声ペンを使用したテストを実施して

(4) 児童への支援・配慮について

(1) 児童の実態

読字

- ・逐次読み
- ・勝手読み
- ・文節の切れ目がわからない
- ・読めない漢字が多い
- ・読むことに時間がかかる

書字

- ・漢字が覚えられずに書けない（文章は、ほぼひらがな）
- ・助詞の使い方が定着しない
- ・書くことに時間がかかる

(2) アセスメント

① 処理速度がとても弱く、聴覚的ワーキングメモリーが弱い。

(WISC-IVより)

② 読みに困難さがある。

(ELC:読み書き困難児のための音読・音韻処理能力スクリーニング検査より)

(URAWSS:小学生の読み書きの理解より)

③ 視知覚に困難さがある。

(WAVESより)

④ 漢字の読み書きが苦手である。

(スマイル・プラネット版読み書きスキル簡易アセスメントより)

(3) 音声付教科書（音声ペン）を使用した支援

①音読

「ことばの教室」と家庭の音読練習では、
音声付教科書を使用。

- ・1回目：見本の音声をしっかり聴く。
- ・2回目：見本に続けて、自分でしっかり
声を出して読む。

(ビデオ参照→)

(3) 音声付教科書(音声ペン)を使用した支援

② 音声ペンを使用したテストの導入において

※ことばの教室にて実施

- ・1回目: ルビなし、音声なし
- ・2回目: ルビあり、音声なし(普段の支援)
- ・3回目: ルビあり、音声あり(音声ペン使用)

☆児童の感想

(ビデオ・アンケート参照→)

(3) 音声付教科書（音声ペン）を使用した支援

③ 音声ペンを使用したテストの導入にむけて

※児童の教室にて実施

- ・普段の実施方法：ルビあり、音声なし
- ・今回の実施方法：ルビあり、音声あり（音声ペン使用）

(3) 音声付教科書（音声ペン）を使用した支援

③ 音声ペンを活用したテストの導入において

※児童の教室にて実施

◎担任からの事前指導

「メガネや補聴器が必要な人と同じで、Aがテストをする時は、このペンを使って読む苦手さをカバーしながらテストを受けますので、みんなも知っておいてください。」

☆児童の感想

(アンケート参照→)

(3) 音声付教科書（音声ペン）を使用した支援

④ 音声ペンを使用したテストを実施して

◎ よかったこと

- ・最初に文章を全部読んでから、問題を解くことができたので、答えが見つけやすかった。
- ・文章を読むことより、問題を解くことに集中できた。

◎ 配慮事項

- ・テストにかかった時間は、普段と同じで、最大限の時間が必要。（場合によっては、時間延長も必要。）

※ 今後、音声ペンを使用したテストを本格的に導入していく。

(4) 児童への支援・配慮について

- ①学級
 - ・座席は、常に最前列。
 - ・テストはすべてルビ付きで実施。
 - ・テストの内容によっては、時間延長も実施。
 - ・漢字テストは、「ことばの教室」で作成している、イラスト入り漢字プリントを使用。
 - ・今後、国語と社会のテストは、音声ペンを使用して実施する予定。

(4) 児童への支援・配慮について

②ことばの教室

- ・音声付教科書での音読練習。
- ・音声ペンを使用して、文章問題を解く練習。
- ・視覚関連基礎スキルを高める練習。
- ・5年生の漢字の読み、3年生までの漢字の書きの練習。
- ・特殊音節や、助詞の使い方の習得。

(4) 児童への支援・配慮について

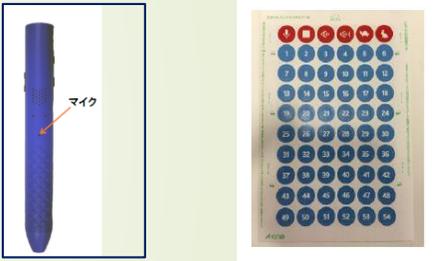
③家庭

- ・音声付教科書での音読練習。
- ・iPadを活用
 - ・DAISY教科書で、単元の初めは内容把握を行う。
 - ・デジタル教材で学習内容の理解を深める。
 - ・漢字や意味調べを行う。
 - ・タイピングの練習を行う。
- ・漢字テストの練習は、「ことばの教室」で作成している、イラスト入り漢字プリントを使用。

音声付教科書と音声ペンの利用について ～まとめと課題～

指導

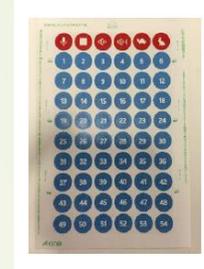
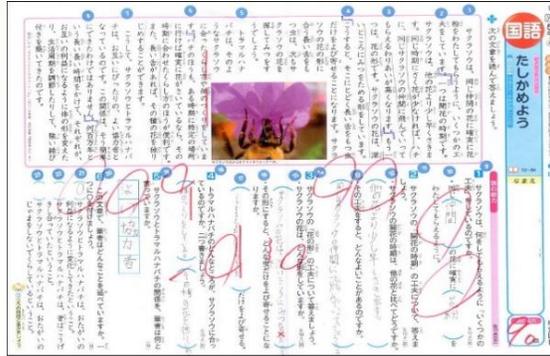
○合理的配慮
の実施

児童	教師
 <p>◎教科書と似ている。</p> <p>↓</p> <p>◎抵抗なく使用できる。</p>	 <p>◎取り扱いが簡単。</p>
 <p>◎無償提供が開始。</p> <p>↓</p> <p>◎個人の物として使用しやすくなった。</p>	<p>↓</p> <p>◎音声付の教材が作成しやすい。</p>

音声付教科書と音声ペンの利用について ～まとめと課題～

評価

△合理的配慮
の実施



2018年度 明治図書（光村 国語5年1学期まとめ）

◎小学校のテストでは評価でも導入。

↓

客観的なアセスメントの重要性

△ 中学、高校での継続的な使用。

△ 学カテストや入試での導入。